（ 令和３）年度　　学 童 ク ラ ブ 事 業 年 間 活 動 報 告 書

（ 京都市深草 ）児童館・学童保育所

	活動の基本目標（指針）	主 な 取 組 名	成 果 と 課 題
生活援助機能	安全・衛生の確保 健康の管理・情緒の安定 基本的生活習慣の確立 社会生活技術の獲得	手洗い･うがい励行 遊具･玩具などの定期的なチェック 昼食時･おやつ時の衛生管理 登館･下館時の安全の確保 健康チェック（各小学校と連携） 挨拶の励行 学習時間の確保（長期休暇中） ※平常時については自主性で取り組む 連絡帳の出欠確認 整理整頓 （ロッカーの整理･おもちゃの整理等） 物の大切さを教える。	手洗い、うがいは日々の活動の中で呼びかけはしていたが、インフルエンザが流行る時期には、館内でもインフルエンザの児童が見られた。しかし、手洗い･うがいの徹底で館内で大流行することはなかった。年度終盤で新型コロナウイルスの感染拡大で手洗い･うがいの徹底を児童に促した。館内入口にアルコール消毒を設置した。 月に一度、安全点検の日を設けて、館内、前庭の安全確認を実施した。危険な個所については職員間で共有し、その問題解決にあたった。また玩具類は定期的にアルコール消毒を行い、割れている玩具等は処分した。 アルコール消毒を机だけでなく、手すりやドアノブなど共有部分に念入りに行い、衛生管理に努めた。また子どもたちの手洗い、うがいの徹底を促した。職員が食品に触る時はゴム手袋の着用に努めた。また食品の冷蔵庫保管にも注意した。館内に手洗いのマニュアルを掲示し、児童にも周知した。 各小学校と連携を取りながら、来館時刻の確認、職員間の共有に努めた。また地域の見守り隊の方に危険な個所を教えてもらったり、日々の通学でもサポートしていただけた。職員も児童の17時帰りのグループに引率したり、子ども110番の家を確認した。 インフルエンザによる学級閉鎖など、学校と連携を取り、情報を共有した。また館内で体調を崩した場合は、他の子と隔離し、風邪などが蔓延しないように努めた。 来館時、帰館時にはもちろん日常生活における様々な場面で挨拶をすることの大切さを伝え、周知した。結果として、児童の方から様々な挨拶をしてくれるようになった。また積極的に外部の方や地域の方にも挨拶をしている場面が見られた。 長期期間中は朝の時間を利用して、学校の宿題をする事を促した。家庭からドリルを持参したり、読書するをする児童もいたが静かな環境の中で、それぞれが課題に向き合うことができた。ただ、一部の児童は短時間で集中が切れてしまい、立ち歩いたりしてしまった。その結果集中している子にも悪い影響が派生してしまったこともある。 昨年に引き続き、来館時に連絡帳の提出を促し、出し忘れがないように努めた。帰館時には連絡帳を持って帰るように声をかけた。 保護者の方も連絡帳の重要性を認知してくれている。 定期的に忘れ物の整理をしたり、使っていないおもちゃを処分して、整理した。また児童にも声をかけて、日頃から整理整頓をするように促していた。使用したおもちゃなどは児童たちが自分で片づけをしている。
子ども育成機能	生活体験の拡大 社会性の養成 自立の促進と自主性の尊重	グループ活動･班活動（長期休業中限定） （助け合って当番の仕事をやり遂げる） 定期的な活動 （エコの日･お誕生日会･わんぱくランド） 季節行事 （新入生歓迎会･クリスマス会･節分会･お別れ会･修了式等） 館所外活動 （伏見子どもまつり･科学センター･お別れ遠足･京都やんちゃフェスタ等） クラブ活動 （ダンスクラブ･ドッジボールクラブ（児童館事業） ハンドメイドクラブ･将棋クラブ） 長期休業中の活動 （なかよしマーケット･品物製作･新春行事･交流ドッジボール等）	生活体験の拡充では、やきいも会や恵方巻きを食べるなど、児童館だからこそ出来る季節行事の他、館外活動行事も行ってきた。また卒館生が自由来館児童として、行事に参加したりするなどして、学童クラブと自由来館の児童の交流が見られた。グループ活動・班活動は長期休暇のみ行った。平常時、グループ活動を行わないことで、3校からのバラバラの時間帯で登館する児童の負担軽減に繋がり、児童館を心地よいと感じてくれている児童も見られた。また長期休暇中は、班活動を行う中で上級生の児童達が、積極的に職員の手伝いをしてくれた。その中で低学年の児童も何か手伝うことはないか職員に聞いてくれる場面もあった。お誕生日会は毎月の月末頃に、実施した。みんなの前で何歳になったのかを発表して、みんなでお祝いをした。みんなの前に出て発表するために事前練習をする児童もいた。長期休暇中では、恒例行事となっている「なかよしマーケット」や龍谷大学の学生さんと交流する「学生さんとあそぼう」などを取り組んだ。今年度のクリスマス会でも実行委員会を立ちあげ、しっかりと役割分担をすることで、それぞれが責任感を持って取り組んでいた。また人前に出ることが苦手な児童が友達と一緒なら参加すると言ってくれたこともあった。 クラブ活動では、明確な目標があることで児童らの意欲が向上しているように感じた。また今年度は、ダンスクラブが深草ふれあいプラザに出演をした。ドッジボールクラブでは、月に2回、近所の公園で練習をしていた。4館交流での大会では、日頃の練習の成果を出し、準優勝することもできた。各クラブ活動全てに言えることだが、上手な人が下の子に教えてあげる場面があったり、下の子が上手な上級生に教えてもらうために声をかけたりして、児童たちが自ら上手になろうとしている場面があったことが大変よかった。 長期休業中の活動においては、毎年恒例の夏祭りに学生ボランティアの協力だけでなく、保護者ボランティアや学童クラブOBOGの協力も募った。多くの方が参加してくださり、児童館が一体となった行事になった。来年度以降も保護者ボランティアやOGOBの参加をお願いしていく予定。
子育て支援機能	子育てに必要な情報の提供と交換 子育ての仲間づくり 子育てを支えるネットワーク形成	保護者説明会の実施 おたよりの活用 個別相談活動 学校･地域･関係機関との連携	年に2回の保護者会を行い、そのうち1回については、子育て講演会も入れて進めていくことができた。今年度から保護者説明会から保護者会という懇談を含めた会に変更し、事業説明よりも、子どもの課題や様子を話す方をメインとした会とすることで、参加人数を増やすことができた。また壁に子どもたちの絵や書道の作品を飾り、保護者の方にも見ていただき、保護者の方の満足感を高めることもできた。保護者会の1回目（7月）は、 長期休暇時（夏休み）の行事内容及び一日の過ごし方を説明し、夏休みまでの子どもたちの様子をスライドを通して保護者に見てもらう形式をとった。又、9月以降の行事の内容を報告し、最後に児童館からお伝えしたいことの話を行った。 2回目の保護者会では子育て講演会（講師は当児童館館長）を行う。3回目（3月）についてはコロナウイルスの影響で新1年生の説明会のみ行った。 個別相談活動では、日々の児童と過ごす中で一人ひとりの課題や問題を把握し、状況によっては、保護者の方と面談を行う形式をとった。 また、障害のある児童については、保育園以外に療育センターとの話し合いなども例年行っている。 また、日々の状況で問題ある児童については、学校との連携を図るなど、小学校との日常からの相互理解と信頼関係を努力してきた。